

組織活性化のための提言



「組織拡充は、総務委員会だけでなく、地区内の全組織を上げて取り組まないといけない。」という居酒屋での熱い会話から始まった。

日本ボーイスカウト尼崎地区

まずは現状分析

尼崎地区の現状(1)

尼崎市内の児童生徒数の推移

1983年 71,844名 → 2008年 34,125名(1983年比**47, 5%**)

尼崎地区加盟員数の推移

1983年(ピーク時)2, 459名 → 2008年 871名(1983年比 **29%**)

児童生徒数の減少率より、スカウト数の減少率の高さが分る。

(ビーバー部門発足、女子加入という追い風があったにもかかわらず。)

尼崎地区の現状(2)

スカウト数 前年比増減数からの分析

- ①第1次ベビーブーム世代の加入により**加速度的に増加**
- ②第2次ベビーブーム世代の加入により加盟員は**ピークに(1983)**
- ③**その後減少**に転じる(年間百名～百数十名単位で減少)
- ④1990年代になり各団に**ビーバー隊発足後減少傾向も改善する**
女子の加入も影響
- ⑤2000年代になり、**ビーバーへの入隊者が減りはじめると再び減少傾向に**

スカウト数の増加時には、ベビーブーム、ビーバー隊発足、女子加入など、尼崎地区以外の要因(外的要因)が大きく影響しており、外的要因がない時は減少していることが分る。 それでは...?

尼崎地区の現状(3)

平成21年度登録から見る、地区存続の危機

- ①15個団中、元気な団および期待が持てる団は半数にも満たない。**危機的状況の団が非常に多い**
- ②平成20年度末の登録数936名、平成21年度継続登録数751名、実に**185名が登録しなかったか迷っていたことになる**

4個団が統合し1個団になったことで、減少は予想していたが、地区全体で、予想を越える減少となった。(最終的に56名減)

新規登録者数を大幅に上回る退団者がいることがわかる。

また、危機的状況の団が非常に多い。

今後の推移予測と組織活性化への道

スカウト数が現状のまま推移していくと

2008年**520名**→5年後**431名**→10年後**342名**と予測される

10年以内に**目標の登録数1000名**にするには、以下の2点が必要

①BVS、CS合わせて**毎年80名以上の入隊者**を確保する

②途中退団者を含め、**上進率を70～80%以上**にする

組織活性化のためには

①**新入隊員の増加対策**

②**途中退団者の減少対策**

③**指導者の質と量を高める**

④**魅力的な活動の展開**

左記のことは言われ続けていることだが、これが難しい。

しかし、これを何とかしないとボーイスカウトの灯が消えてしまう。

提言1. 広報

「小学校、幼稚園、保育所、公共施設への働きかけ」

ボーイスカウト活動の紹介、行事の案内など**積極的にPR**する
PTAとの良い関係を築く

「町会の回覧板、掲示板の活用」

地域(町会や商店会等)と**良い関係**を築き広報に協力してもらう

「積極的な広報」

効果が少しでも期待できることは**躊躇せず**積極的に取り組む
(体験入隊の実施、ホームページ開設、地区での取組みなど)

「保護者へ広報のお願い、歴代の指導者へ情報提供」

口コミによる広報が最も効果的 (保護者に積極的な取組みを依頼)
OBからも広報をお願いするため、団の情報を定期的に流す

提言2. 指導者

指導者の質と量が不足すると、団は衰退の一途をたどる(発掘と養成が大切)

「ローバースカウトの教育」

講習会、各種研修会へ参加することを奨励する

「保護者との関わり」

保護者から指導者を発掘することが近道→保護者や地域の人向けのボーイスカウト説明会を開催する(団担当コミによる押しかけ研修やデリバリー研修の活用)

「指導者の資質の向上」

適材適所に人材を配置する

講習会、研修所、実修所、各種研修会への参加の働きかけ

「女子スカウト対策」

目標となる女子先輩スカウトを育てる

スカウトから慕われる女性ボーイ隊指導者の配置

提言3. 進歩

「プログラムが進級の土台になりたっているかどうか」

「進級の個人記録がしっかりと整っているか」

「活動が充実しているか」

「進歩の励ましがあるか(進級章やバッジの授与式)」

「団の進級面接を怠っていないか」

つまり、**進歩制度が有効に活用されているかどうか**に尽きる
途中退団者を減らすためには、**目標を持たせた活動**をすること
進級面接会、進級章・バッジの授与式を大切にする
菊・富士章を取得させ、団全員で顕彰してやることが重要
ビーバー・カブにも**目標**となる

提言4. 団の適正規模と合同活動

2008年統計 1個団あたりの加盟員数全国平均**63.1名**

尼崎地区**54名**(阪神6地区中最低)スカウト数だけでは**33名**

兵庫連盟の考えるスカウトの標準組織

BVS12名 CS18名 BS18名 VS6名 RS6名 計60名以上

カブ隊**3組**、ボーイ隊**3班**以上を念頭においている

旧規定では **CS10名 BS12名 SS8名 RS8名** に満たない部門は隊登録できず、**全部門とも隊登録できないと廃団**

2008年度の登録数を旧規定に当てはめると

尼崎地区の**半数近い団が廃団**に追い込まれる状況

班制教育を機能させるためにも、活動を元気にさせるためにも、
少人数団は、**近隣団との合同活動**を奨励する

合同活動を行なう時の留意点

○丸投げしない

スカウトを他隊指導者に預けることは団の発展に逆効果

○場当たりの活動は行なわない

団相互の意思統一を図る。単発の活動では効果は上がらない。

○隊長同士協働する

良いところを学び合い助け合う

○合同で行なう「ねらい」を理解する

団を活性化と班制教育の機能が目的

合同活動は緊急避難的処置であることを認識する

団の体制を再構築するための合同活動であり、お任せ体質になるなら団の統合の方を勧める

最後に(1)

組織活性化委員会で取り組んだこと

- 組織活性のための研究や検討
- いやさかバッジの啓蒙
- 地区ホームページ開設のための委員会立ち上げ
- 合同活動の推進→全団から了承を得る
- ORS活動の活性化
- 広報活動(FMラジオ出演、ケーブルテレビへの広報依頼)

菊章・富士章を目指しているスカウトは退団しません。(進歩制度)

スカウト仲間に親友がいるものも退団しません。(班制教育)

スカウト活動が大好きなものは当然退団しません。(野外活動)

ボーイスカウト運動の原理原則に沿った、魅力的な活動を進めていきたいものです。

最後に(2)

みなさんの団でも、団委員会・団会議とは別に、**団の組織活性だけを話し合う会議や委員会**の機会を設け、十分な研究と検討を重ね、方針を打ち出し、**全指導者が一丸となり、団発展のために取り組む**ことをお薦めします。

危機感を持って取り組まないと、団の未来はないと思います。